



※このニュースレターは、当基金サポーター会員、配信登録をいただいた方、イベントなどで名刺交換をさせていただいた方にお送りしております。

12月も後半になり、豊島でも朝晩の冷え込みが一段と増し、風の強い日には船が止まることも出てきました。今年もオリーブオイルの瓶詰めが無事に終わり、現在は納品や発送などの対応を進めているところ です。

今号では、25周年式典後の豊島での活動報告や25周年を機に広がる取り組みについてご紹介します。

豊島の自然再生と学びの場づくり



11月11～12日、法人サポーターであるNGP（日本自動車リサイクル事業協同組合）のみなさまとともに、産業廃棄物処分地のすぐ隣にある植生回復調査地「ゆたかなふるさと再生の森」で、豊島本来の自然を取り戻すための整備作業を行いました。

今回は、JTP（日本トラックリファインパーツ協会）のみなさまも参加くださり、総勢16名が来島。2日間にわたり、植生回復と環境教育の場づくりにご協力いただきました。

作業の中心は、6月に続いて取り組んでいる「見本園」の整備です。不法投棄の影響で損なわれた豊島本来の植生を再現し、未来の学びの場として整えている場所で、今回は階段上への土砂の運搬を完了。さらに、島内で採取・育成したアラカン、クスノキ、クロガネモチなどの苗木を約30本植え付けました。また、表土の撒き出しも行い、土の中に眠る種からの発芽・成長も見本園で見られるようにしています。少しずつ育っていく植物の姿を、今後も見守っていくのが楽しみです。

豊島本来の豊かな自然を回復するには、長い時間と根気強い作業が必要です。NGP様をはじめとしたみなさまの継続的ご協力とご支援によって、こうした地道な取り組みが支えられ、自然再生と未来世代への環境教育の基盤が少しずつ形づくられています。

この一連の取り組みにおいて、NGP様が環境省主催の「第13回グッドライフアワード」において、「実行委員会特別賞 環境ひとづくり賞」を受賞されました。今回の受賞は、豊島での継続的な環境再生活動と、学びの場づくりを通じた人づくりの取り組みが評価されたものです。

受賞の詳細については、こちらをご覧ください。▶[プレスリリース](#)

【期間限定】UNIQLO「UTme!」でチャリティデザインが登場！



当基金の設立25周年を記念して、UNIQLOのオリジナルプリントサービス「UTme!」にチャリティデザインが登場しました！

今回のチャリティデザインは2種類。ひとつは、当基金の呼びかけ人である建築家・**安藤忠雄氏デザイン**、もうひとつは、**オリーブとスナメリをモチーフにした新しい基金ロゴ**をあしらったデザインです。Tシャツ・スウェット・トートバッグにプリントして、自分だけのアイテムをつくることができ、**売上1点につき100円が瀬戸内オリーブ基金へ寄付**されます。いただいたご寄付は、瀬戸内海の自然保全や環境教育の取り組みに活用させていただきます。

本チャリティプロジェクトは、**2026年1月31日（土）までの期間限定**です。

UNIQLOのオンラインショップまたは全国のUTme!展開店舗で作ることができるので、ぜひこの機会に、自分だけの一枚をつくって、プロジェクトを応援していただけると嬉しいです。

さらに、**Instagramでは注文の流れを紹介した投稿も公開中**です。ご検討中の方は、ぜひそちらも参考にしてみてください！

▶ [詳細はこちらから](#)

▶ [作り方の紹介はこちら](#)

ウェブマガジン『コロカル』で連載がスタートしました！

マガジンハウスが運営するウェブメディア『コロカル』にて、瀬戸内オリーブ基金の連載が始まりました。連載テーマは「豊島事件の教訓を、未来へー瀬戸内の自然と暮らしをつなぐ」です。

第1回は、豊島に暮らす基金事務局・松澤が登場。住んでいるからこそ感じる豊島の魅力や、自然と人との関わり、日々の風景を紹介しています。

今後も、基金の活動や環境教育の現場、島の人々とのつながりなどをテーマに、全4回の連載が予定されています。ぜひご覧ください。

▶ [第1回記事はこちら](#)「島民がガイドする、何度でも楽しい豊島のディープな魅力」

25周年記念冊子を公開しました

11月8日の記念式典で配布した「瀬戸内オリーブ基金 25周年記念冊子（PDF版）」を、ウェブサイトでも公開しました。

これまでの歩みと、次の25年に向けた展望をまとめた一冊です。自然再生や環境教育の取り組みに加え、「メディアが見た豊島事件」と題した寄稿企画、協賛企業のご紹介も掲載しています。

ぜひご覧いただき、今後の活動も引き続き見守っていただければ幸いです。

▶ [詳細はこちらから](#)

25周年記念コラム

瀬戸内オリーブ基金の25周年を記念してお届けしている、当基金運営委員が寄稿するコラムです。

みなさんが豊島を知ったきっかけは何でしたか？

テレビや新聞、瀬戸芸やオリーブなどから知った方も多いかもしれません。

私は20年ほど前、環境問題に関心のある知人に誘われて、初めて豊島を訪れました。

まだ多くの産廃が残っている中、心の資料館にある産廃の壁の前で住民会議の安岐さんの話を聞きながら、思わず涙を流したことを今でも鮮明に覚えています。

その後、家族から豊島が祖母の故郷だと聞き、不思議な縁を感じました。

以来、訪れるたびに新しい気づきがあり、環境問題に向き合う自分自身の原点にもなっています。

まだ来られたことのない方も、きっと何かを感じられる場所だと思います。

機会があれば、ぜひ一度足を運んでみてください。

岡野雅通（オリーブ基金運営委員・日本アイ・ビー・エム株式会社）

豊島事件の解説動画をYouTubeで公開中！

[すぐにわかる豊島事件をYouTubeで見る](#)

オリーブ基金の活動にご協力をお願いします！

SNSをフォローして支援

SNSでは日々の活動を発信中です。SNSフォローで当基金の応援をお願いします！



[公式 WEBSITE](#)